

四谷の

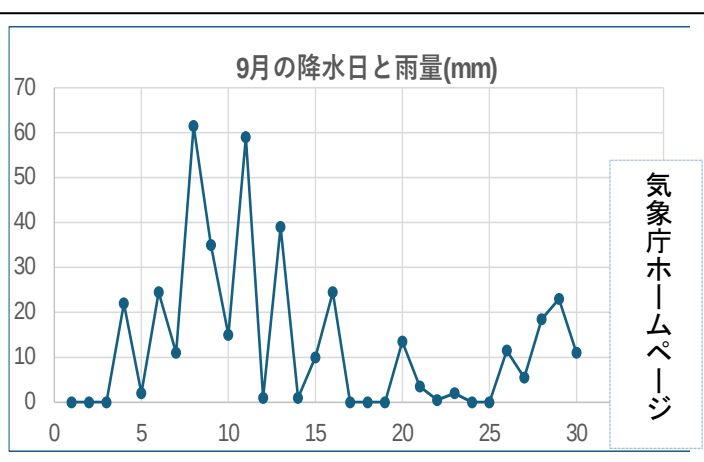
千枚田だより



第 277 号



棚田の百姓がこぼした嘆きの声
9月末日、とくに刈り取りたい時期は過ぎていくが、刈り取れない稲刈りは例年9月上旬に始まり中旬には終わるが今年の天候では10月になっても田んぼで稲が残ったままの姿が見える。9月に入り、降り続いた雨。気象庁ホームページで



みると新城市での雨の降らない日は8日で天候不純な日が続いた。棚田は雨が降ると湧き水、押し水が多く、天気になったから稲が刈れるわけではない。グラフに降雨日と雨量を示したとおり雨続きで、時たまお天気と、稲もさんさん濡れて、湿り気を帯びたところに暑い日差し、否が応でも発芽してしまう条件の天候であった。ある農家は稲架架けの予定であったが、何時くずれるか判らない天気を心配、コンバインを頼み降り出した雨にも係わらず「まず終わった」と安堵。粃摺業者に搬送したところ業者はモミをみて、これでは：と怪訝顔。持ち込まれた業者も百姓も気を大きく落としたそう



9月初旬に稲架架けした稲は見事に発芽、脱穀ができるか心配なぐらいに発芽してしまっている。



稲刈りは一条刈りのバインダーで刈り取るが、水が残っているとタイヤが泥濘にはまりグチャグチャに無理して刈り取っても稲穂が泥だらけになったりバインダーが壊れることもある。(バインダーが壊れたと複数の農家の噂が流れた)。ほとんどの農家は水が引くまで待ち続けることはできなく、小雨ぐらいなら刈り取っていたりもした。聞くと、穂が雨に濡れると芽(発芽)が出てしまう。刈り頃はとくにに來ているので、早めに全部刈りたい。この天気では刈らなくても立ったまま芽が出るし、刈って稲架にかけても芽が出てしまう。同じ事なら片付け仕事で刈っちまえ：：：なんにしても稲刈りを終えたい：と、天を仰

ぎながらの愚痴がそこかしこから聞こえてきた。



ひこばえの成長が大きい



成熟株と無効分けつ

耕す百姓は「田んぼが生きがいだ：」などと自負していたが、ここ数年害獣に悩まされ、気象変動に翻弄され、踏んだり蹴つたりの状況だ。それでも観光客は癒される：と大勢が訪れる。ここ数年、そのギャップが大きく、心が折れかかる。

関東(東京)では9月は毎日雨降りだったそうなので、心情を察する。

稲刈り体験ツアー

9月12日、クロスウオーク・山のサイクルプラン「発酵と農業が育くむ東三河の食文化」と題したその一つとして稲刈り体験が行われた。参加者はスタッフを含め19人。

このツアーは保存会の曹さんが受け入れ、小山孝夫理事の田んぼで稲刈り体験を実施した。



稲刈り体験ツアー

スタッフに地元ゆかりの糍屋三左衛門さん、サーラグループ神野リーダーとも話が弾み楽しかった。

豊橋・奥三河のグルメやちくわ・練り物職人体験などを満喫、秋の恒例企画「豊・食・人 GEN-B」の一環として開催している。

「ヤマサちくわ」は四谷の千枚田の棚田保全活動に参加している。

9月12日、参加者19人は雨模様

の中、東屋で会長から稲刈り鎌でザクつと刈る秘訣、稲束の縛り方などをレクチャー、そして実践。

また、田んぼの案内では二ホンジカやサル被害の現状を説明、我々棚田の百姓は保全、継承に尽くしているが気象変動、害虫被害に悩まされている。また目には素晴らしい景観であるが、耕す百姓は辛く厳しく耕作意欲を喪失しかかっている。耕作者の自力では何ともならないのが実状である。等々と説いた

稲刈り
校外学習

9月13日、午後は雨予想。合間をみて鳳来寺小は稲刈りを行った。

挨拶に、昨年は先輩たちが一生懸命育てた稲も稲刈り前にイノシシやサルに食べられてしまい悲しかったが、今年は獣たちの被害は少なかった。「おめでとう」と……そして稲刈りや稲の縛り方などを伝授、ワイワイがやがやと楽しく稲刈りを行った。



幻のヘビ「シロマダラ」

千枚田の入口下の「稲架なる」の
屋根下で今年も「シロマダラ」を目
視した。



同種は日本固有種でトカゲや他のへびの仲間の爬虫類を食べる無毒のへびである。

シロマダラを見ると金運が上がると云われる。その訳は遭遇率の低さから「幻のヘビ」と呼ばれて出会えること自体が極上の強運とされているためだろうが、…そうでもない。

新城市にはシロマダラ以外に、タカチホヘビ、シマヘビ、ジムグリ、アオダイショウ、ヒバカリ、ヤマカガシ、ニホンマムシが生息している一粒のコメの大切さを学ぶ

一粒のコメの大切さを学ぶ

9月8日、豊橋調理製菓専門学校
の学生(16人)は食の原点「一粒のコ

メの大切さ」を学ぶため田植・田の草取り・稲刈り・脱穀までの一連の農作業を通した体験学習を行っている。この学習は学生は勿論、市鳳来総合所地域課を窓口 に南海農政局など行政も学生たちの将来を望み、一体となり取り組んでいる。励ましに、市鳳来総合支所長や南海農政局からもお言葉を頂戴した。



秋の千枚田環境整備活動

保存会は環境整備活動を10月25日午前8時から実施する。

（雨天決行）

令和八年十月十五日

鞍掛山麓千枚田保存会
文責 小山舜二
発